◇老人福祉週間　九月十五日〜二十一日　老人をいたわりましょう

三隅広報

発行所
三隅町広報委員会
発行人　稲田正治
編集人　三原祥祐

町政日誌

七月四日　選挙管理委員会　農業委員会委員の選挙について協議決定

七月八日　湯免温泉委員会　公衆浴場建築敷地の現地調査

七月十六日　農委投票日　定員十名に対し立候補者十名。無投票の結果左記の者当選者と確認

「田村豊作」「山田恭輔」「田辺一郎」「上田実」「堀光太郎」「熊野五一」「村岡利一」「宇野克治」「上田豊作」「木村行蔵」尚農協推せんの二名学識経験者の議会推せんは七月十九日の臨時第四回町議会により三名選出し廿日町長の正式選任者により左記の者が決定した。

農協選出委員　山本吉郎

竹内正一　議会推せん　町長稲田正治、中野市江、中野輝夫の計十五名が本町農業委員となり会長を中野市江氏に。

七月三十日　臨時第五回三隅町議会を開催　議案の主なものは今年度の追加更生予算で三隅湯免温泉の公衆浴場の建設費等がある

八月五日　浅田小学校講堂の入札会　萩土建株式会社が七二八万円で落札した

八月十日　総務委員会

八月十四日　湯免温泉委員会　今年度追加建設事業の審議　第三ボーリング工事施行の決定、第三ボーリングは深度一五〇米まで堀下げる事に決定した

八月二十一日　本町畜産共進会、今年は宗頭校グランド

八月二十三日　三隅町議会協議会　協議事項は
1、今年度追加建設事業の件
2、三隅湯免温泉の発展的開発方針の件
3、新生計書にたつ町有林の一部貸付の件

九月中旬　三隅湯免温泉公衆浴場の入札会と第三ボーリング工事の着工

九月二十日　敬老会　年よりの作品展示会の開催

十月三日　山口県消防操法競技大会　本町から浅田分団が三輪自動ポンプ競技に出場。

待望いよいよなる

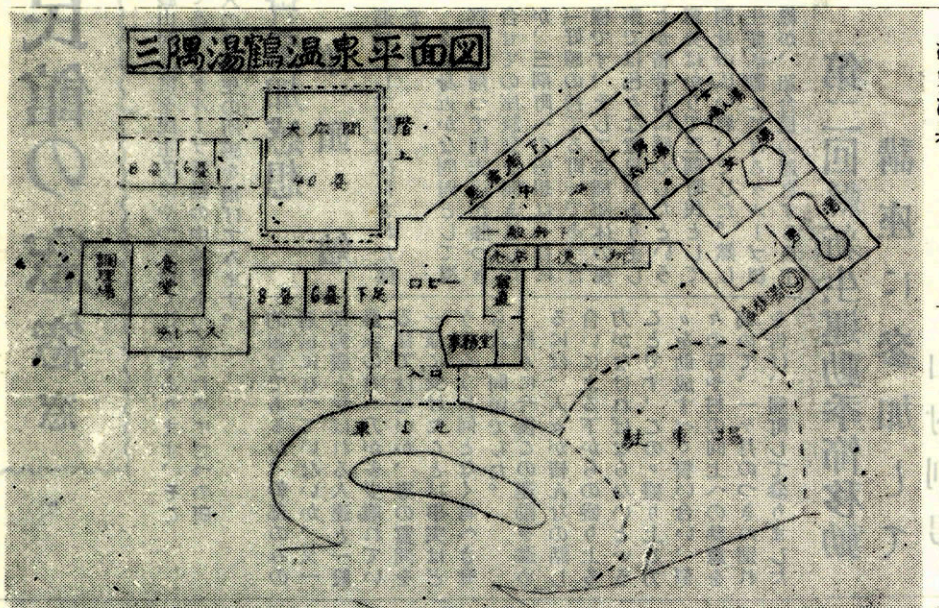
「三隅湯免温泉」

！名称も三隅湯免と改められこれの開發設計について助役久行春作氏にうかがう！

湯免温泉は古い歴史はあるものの今迄の開発は極めて小規模なものでありましたが町としても此の天恵の資源を開発することが地域に与へる大いなる恵であることを確信し皆様の意見を結集して之が開発に着手本年度一千数百万円を投じて完成することになりました。第一テストボーリングは七三米湧出量一分間一斗五升第二ボーリングは二六米湧出量四斗二升の大量湧出でありまして此の地点に敷地六四八坪に近代的大衆浴場を建設其の名も『三隅湯免温泉』と改称薬効大なる温泉なるが故に療養静養両面の施設を完備することになりました。

建物の内容は配置図の通り本館二階建一一四坪浴場七二坪食堂一五坪其他ボイラー室倉庫便所等二二一坪の拡大なる建築であります。今迄は交通も極めて不便であります為三隅町を縦貫する第二国道改修の完成と共に幅員六米の道路新設電燈電話の施設計書及大衆浴場を中心とする温泉都市計畫もすすめられることでありませう。従つて今後同地域に於ける建築構造物についても将来を見透した規制が定められることが必要と考へられます。尚近く第三ボーリング「一五〇米」が着工の運びとなりましたので之が湧出の結果に於ては旅館営業等については希望配給も考へられることと考察致します。

町設の大衆浴場は来春四五月頃には完成致しますので皆様が愉快な一日の静養をされることも又薬効を望まれる方も近き将来であり概略を述べると共に将来の発展を期待するものであります。



打續いた災害も斯くの如く旧に復す

本町の各年災害も之が復旧について関係当局の絶大なる指導援助のもとに鋭意努力し各々完成の域に達し本年度の復旧を終れば殆んど完成と見て差支えない。各年災害の復旧状況を挙げれば左記の通りである。

尚昭和二十九年災害の未復旧箇所については其の後自力復旧その他状況の変化等により強いて復旧を急ぐ必要もないので殆んど完成したものと解するものである

記

一、昭和二十六年災害について

（イ）災害土木事業
査定箇所　一八ケ所
復旧箇所　一八ケ所
（昭和三十二年度復旧を含む

（ロ）災害耕地復旧事業
査定箇所　三一ケ所
復旧箇所　三一ケ所

（ハ）漁港施設復旧事業
査定箇所　一ケ所
復旧箇所　一ケ所

二、昭和二十八年災害について

（イ）災害土木復旧事業
査定箇所　四ケ所
復旧箇所　一ケ所

（ロ）災害耕地復旧事業
査定箇所　三ケ所
復旧箇所　一ケ所

三、昭和二十九年災害について

（イ）災害土木復旧事業
査定箇所　三九ケ所
復旧箇所　三二ケ所
（昭和三十二年度復旧箇所を含む）

（ロ）災害耕地復旧事業
査定箇所　一四五ケ所
復旧箇所　一二三ケ所
（昭和三十二年度復旧箇所を含む）

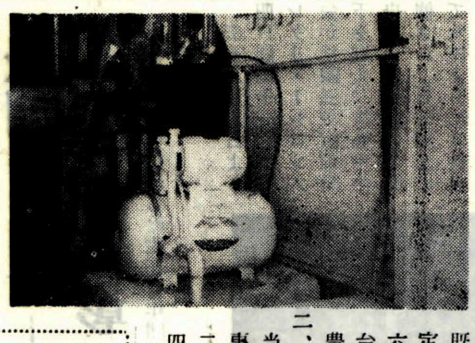
（ハ）漁港施設復旧事業
査定箇所　二ヶ所
復旧箇所　二ケ所

四、各年災害（土木、耕地、漁港施設）の計
査定箇所　二四三ケ所
復旧箇所　二〇九ケ所
未復旧箇所　三四ケ所

三隅農協あつせん

家庭用電気ポンプ

農家の生活環境に於て何を生活改善の第一歩に着手すべきであるかと云えばそれは台所の改善であり主婦の負担を倍加してゐる使用水の合理的処理であらねばなりません。（一人一日の水の使用量を約一石とし、五人家族が一日五石、一年間に千八百石、重さにして八万五千貫の水を汲み上げることになる。）一家の太陽となり、子女を教育し、しかも家計を担当する農家の主婦が過重なる農業に従事し、かたわら不便な台所で賄から衣服の世話を一身に引き受け、一寸の暇もない生活から早急に救はれなければなりません。吾々が台所の改善特に使用水の自動施設即ち家庭用動力ポンプに就て声を大にして奨めることは、真に農家自らの急務であり、農家の主婦をこの苛酷なる労仂から救う第一歩であると信ずるものであります。幸に当町農協が之を事業の一つにとりいれ部落婦人部を動員し普及につとめた結果大なる成果を示し更に続行することになつておるので次に実施状況を紹介し皆様の参考に供し今後の増設を念願するものであります



（取り付けられた井戸ポンプ）

一、施設台数（七月末現在）

既に自巳施設ー四〇台（推定）農協斡旋による施設ー六〇台、〔内訳〕沢江二六台、浅田一五台、小島六台豊原四台、その他九台

二、施設に要した費用（一台当）八分の一馬力、配管工事電気工事、その他一切ー二万三千円ー二万六千円、四分の一馬力ー三万一千円ー三万四千円

三、農協融資

大部分全額融資とし返満期限二カ年、返済方法ー一カ月分割又は年一回及至三回払

四、農協融資第二次（九月）計畫二〇台につき希望者は申込むこと

（照会先、三隅農協　斉　助三郎）

「宗頭で開いた」町畜産共進会

本町和牛生産の先進地であつた上地区か最近停滞しているのでこれの畜産意慾の向上をめざして去る八月二十一日宗頭小学校々庭に於て台風七号の悪条件を克服し町畜産共進会を盛大に行われた。審査長講評として出品牛は一般にみて昨年より体型資質共に向上が認められた。特に中軀に於て改良の跡が見受けられた。今後は町内に於て「つる牛の造成」を目指した和牛改良方針の樹立が望ましいことである。一方生産コストの引下は農家経済上最も緊要なことで自給飼料体制を早急に確立することを要望された。当日の出品牛三〇頭、緬羊一三頭の内入賞者は次の通りである。尚来る九月二十六、二十七日開催の郡共には本町から今回入賞の内三等の二席までの和牛が出品される。

一、和牛の部

一等「なが」的場勝義「第四にちたか」岡本清助、二等「てら三」田村皐月「すみ第二ふかとし五の三」中野市江「なかの」仲野義人「たけした二」河野善吉、三等「よしこ」田中芳人「たなか」中野伊勢一「ふるたに」古屋与三一「かよい」山本惣一「ゆたな」大草千代松「にしかめ一」多田敏雄、四等「みやもといち」中村精輔「やまむら」山根豊一「しんも」西田作一「ことう」小西清一「ひかり」山田種造「うき」浮村条男「くぼえ」小林米一「のむら」田村良式

二、緬羊の部

〔一等〕木村真一〔二等〕伊藤作太郎、藤村一郎〔三等〕杉原謙一、岡崎武雄、田原作一〔四等〕深田保介、田原武雄、田原作一、永富吉松、岡村幸一、樋田与吉　林孝介

老人（としより）を大切にしよう

「としより」を大事にする度合でその国の文化の程度をはかることができるといわれている。国が「としより」の生活を保障する制度を速やかに確立すべきである。これとともに国民のすべてが「としより」を尊敬し親愛の心をもつて常にその幸福を考え、また「としより」と若い人たちが協調し、お互の立場を尊重し合つてこそ明るい社会が建設される。ここに「としよりの日」をはじめとする「としより」の福祉週間が設定せられた意義がありこれを通じて、この考え方を日常の実践にまでひろげ老人の福祉を向上させようとするため例年の通り九月十五日を「としよりの日」と定められそれから九月二十一日までを「としよりの福祉週間」として全国にこの運動が展開せられている。それで三隅町としてもあらゆる機関の協力を得てこの期間を意義のある週間とする考である。又町として行う行事は沢山あるもそのうち主なるものは九十才以上の高令者に記念品を贈呈するとか老人の相談所を各民生委員宅並に役場社会係内に設けて老人の相談に応じること。あるいは毎年の定例日たる九月二十日三隅中学校講堂で七十才以上の「おとしより」を招いて町よりの賄を差上げ会食の内に婦人会小中学校生徒の演芸を観覧していただくことや「としより」の手芸品の陳列公開を当日なす等の計畫をたてている。

又学校では特に児童生徒に敬老の念を強調して認識させ、そして各家庭に浸透させることやポスター標語作文を募集あるいは街頭にはり出して「としより」に親しむ思想を高揚せられる等あらゆる手段を計畫してこの週間を意義あるよう務めるのである。それで各家庭でも「おちいさんおばあさんありがとう」の趣旨で「としより」を中心とした日送りを父祖先の墓参をする等ほんとうに心からなるこの週間を意義あらしめたいと皆さんによびかける次第である。

敬老会……三隅町主催

期日　九月二十日
於　三隅中學校講堂

九州水害罹災者へ

義捐金品醵出の御禮と報告

今次九州西北部に襲来の豪雨水害は稀有の惨禍を来し早速町民各位にあたたかい義捐金品の醵出方よびかけたところ金額で四四、八二四円物品（衣類）で三三三点集りましたので直ちに災害地の日赤県支部宛送り今頃は罹災者の手に渡つたことと思います。茲に沢山の金品を醵出された町民各位に対し紙上を通じて御礼申上げると共に報告します

◇九月十五日選擧人名簿登載申告日。必らず申告致しましよう

◇お断わり　「三隅湯鶴温泉平面圖」とあるは「三隅湯免温泉平面圖」の誤りにつき訂正

◇納税　備あれば憂いなし　笑顔で完納明るい町政

納期十月三十一日　町縣民税（三期分）

公民館の窓

農山漁村新生運動とは、農山村経営を民主的にやつて行くことであります、そこでその農村経営の担い手である各グループ活動の中核者をつくるために二つの研修会がもたれたので、三人の受講生の所感を掲げてみます。

新生運動研修會參加感想

兼頭勉

去る七月十日より山口県農事試験場に於て第一回新生運動研修会が開催され、各市町村の青年三十二名が参集し、一ヶ月にわたり、連日八時間の講義と三時間の研究討議を重ね、その間三隅町、下関市川中地区、大内町農業研究会等の視察を行いました。この研究会に參加した三隅青年として感じたことと、他町村青年の三隅に対する感想批判等を述べさせて頂きます。

総体的に山口県の新生運動は、未だ青年の介入するまでに至つていないことと、各町村共青年にこの運動に対する積極的な推進への機運がなかつた事であります。そのために前記三隅を含めた視察地あたりはこの運動についても先進地として相当注目された様です。

次に身近かな問題として視察から帰つて同志達が膝つき合せての座談会を開きましたが、三隅町への感想は一様に「好感の持てる町」であつた様です、そして各種団体の視察では色々な意見がありましたが皆非常に感心したという意見ばかりで三隅町民として肩身の広い思いでした。然し生産活動に於けるグループ組織が、組合員の運営する自主的組合であるか、幹部のみの運営になつていないか、又一部篤農と呼ばれる人達と一般農家の考へ方が多少離れている様ではないか、等の質問をうけたことは事実はどうあろう共何となく考へさせられる問題でした。

終りに今後この運動を進めるには、人々が皆んなの話し合いによる下からの盛り上る力がなければならないということです、この〃盛り上る力〃を助成すべく誓い合い、個々の町や村の向上への熱意を秘めて、一ヶ月のつきぬ別れを告げ、帰町して參りました

第二回縣新生運動季節移動講座に参加して

山村則男

第二回季節移動講座に県内各町村より選抜参加された一〇二名の男女青年と共に、地元三隅町で講義をうけ、民家宿泊を行いましたので、感想をのべさせて頂きます。

敗戦直後の荒廃した村の中で当時に長い一生生活して行かねばならぬかと思へば実に悲しかつた記憶があります。然し今では戦後の我等の村がおかれている状態と、町つくり村つくりという諸問題と取り組む決意を新たにしており、それ丈に意気高らかに此会に、参加致しました。

ある意味では新生運動は社会教育であり、民主々義は教養から育くまれ、生活改善は農業経営と結びつき所得の向上、生活の合理化と結びつかねばならないと思うのであります、そして夫等を実施して行くのには若い担い手をつくる事にありますが、その青年が運動の先頭に立つ事は老壮年層の理解が必要であり、同時に青年が生産面に於いて実力を発揮し信頼される様にならなければ実現出来ぬと思います。

この理解を深める努力と実力の涵養、研究の実施が緊急に必要と痛感しました。

此講座によせられた町長さんや町民の皆様の御協力を感謝し、分宿先の農家に大変御迷惑をおかけした事を一同を代表してお詫び致します。

私も此度の成果を生かし、町つくり村つくりに精魂をこめ全力をつくして、町のため家のために一青年として励んで行こうと考へます。

柳田ゆき子

明るい、豊かな、楽しい村を青年の意気によつて築こうと、八月五六七日の三日間研究討議いたしました、講義の中で村田清風先生はそんなに秀才ではなく、むしろ鈍人の方であつたと聞いて安心し、何事にも努力が必要という事を痛切に感ぜさせられ、座談会では「新生運動としてどんな青年活動を実施しているか」に対し、遂に「どうして今頃の女子青年は農村に嫁に行かないか」に発展し各地の女子の熱心な意気込と色々のものの考へ方に啓発されました。現地視察では清風館見学後女子のみ浅田生活改善クラブを訪問、クラブ員の作られたビスケットを御馳走になりながら、嫁と姑の問題を始め身近な事を話し合い「浅田に嫁入したい」という多くの女子のひそひそ話しに、思はずほほえみ乍ら帰りました。

偉人村田清風の讃歌

三隅町が生んだ我が国の偉人村田清風翁の遺徳とあの遺業を末永く後世に伝えたえず町民の胸中に喚起する為翁を偲ぶ讃歌の作詞を町内一部有志の間で要望されてゐた処この程翁の遠縁にあたる熊野隆治先生から次の様な讃歌が寄贈された。この歌の作詞は田俊資先生で作曲者は山口大学教授の森豊幸先生である。

（一）波ほえたけるわたつみに
襲いよるあだ　はらわむと
見よ　三軍の　志気振い
神武とどろく　羽賀の台
松風高きひびきあれ
ああ　偉人　村田清風

（二）民　豊かにて　国安し
拓く地の幸　節約に
見よ改革の　実は結び
青史さんたり　わが二州
誉の菊に　光あれ
ああ　偉人　村田清風

（三）世の弥栄は　人にあり
門戸ひらける　育英に
見よ文運は　雲と湧き
宏図と映え立つ　明倫館
咲きつぐ梅に　香りあれ
ああ　偉人　村田清風

（四）夢まどかなる　野べの鶴
郷に和楽の　声あふれ
見よ恩寵は　うるおいて
功　朽ちせぬ　三隅荘
千秋　月に　余影あれ
ああ　偉人　村田清風

緊急畜産センサス實施について

農林省統計調査事務所では県庁、市町村、畜産連合会の御協力、御援助を得て来る九月一日現在で県下全農業集落（部落）と、その集落内の全農家とについて畜産全般のことを調べることになりました農業集落（部落）については集落全体から見た家畜売買の慣行、牛乳の販売方法、飼料自給の状況、飼料作物を作る場所、採草地、放牧地の面積何の目的で（仮取りか、肥育か、乳取りかなど）飼つているかなどを調べ又養蚕を行つている集落では養蚕のことも調べます。農家については家畜家禽の飼養頭羽数、経営耕地面積、動力農用機械などを調べます。そしてその結果を十月末頃までに集計して農業集落別、市町村別の統計を作りますので市町村の行政資料としても早速利用出来ます。然しこの調査は統計法という法律によつて行いますので皆様は充分御承知のことと思いますが決して税金などの対象になることはありませんので、この点特に御安心願つて、正しい統計が得られますよう格段の御協力を御願い致します。この調査は何のために行うかと申しますと御承知のように我が国は九千万の人口をかかえ、食糧の約二割を輸入している現状でありますから食糧の増産はひとり農家経済の安定向上のためばかりでなく我が国の経済自立とその発展上極めて重要であります。しかるに米麦を中心とする農業生産力は最近一般的には停滞気味となつております。このような状態では農家経済の向上ならびに国力の発展は望まれません。そこで緊急に畜産部門の振興を計ることが最も必要であると考えられるに至りました。農林省としては最近の情勢から見まして、単に畜産業という立場だけでなく農業全般の合理化ならびに高度化を図る立場から一層積極的な畜産の改良、家畜増殖政策を立てる方針でありますが然し現段階では諸政策を立てるに必要な畜産に関する統計資料が不充分でありますので畜産業の実態を早急に統計的につかむため緊急畜産センサスを実施することになつたわけであります。以上のような次第でございますので各農家の皆様がこの調査の大きな使命を御理解下さいまして絶大な御協力を賜りますよう切に御願い申し上げます（農林省山口統計調査事務所）

新築を急ぐ
浅田小講堂（給食室）（音楽室）

学級増加で教室不足に悩んでいた浅田小学校は、講堂の普通教室（三室）への模様替、宿直室、養護室、放送室の移転を六月完成したが、これを皮切に引続いて第一校舎前に講堂、第一校舎東側の元花壇に給食室、第二校舎東側の旧宿直室を取り除き音楽室を増築することになつた。

講堂敷地は既に埋立を終へ去る八月五日競走入札で萩土建（萩市）に落札、八月十九日起工式を行い工事は順調に運んでいる、竣工は来年一月の予定

内容は次の通り

◎講堂敷地（拡張）	五〇四坪
○講堂	一二二坪
講堂広間	一　八一坪
玄関	一　八〃
器具室	二　三〃
ステージ	一　一二〃
控室	二　九〃
便所　男女各一	三〃
物置（映写室）	六〃
○講堂渡廊下	九、七坪
○自転車置場	一、五坪
○音楽教室並昇降口	四〇坪
○給食室	三五、八坪
○渡廊下	七、四坪
○便所	六坪
総建築坪数	二二三坪

給食室は国庫の半額補助を受け近代的な内容施設が建築完了と同時に見られる訳である。翌二月からは週五日の完全給食が計畫されており、これを通じて保健体育等、児童の体位向上にも大いに期待されている。

▽給水道施設完成も間近

宗頭小学校　給水施設工事も、この休暇中に竣工予定で今の度、配管、タンクの取付けも終り、手洗足洗場の完工次第で、二学期からの使用も可能であろう。

ほんとに子供が喜び幸せすることでしょう。

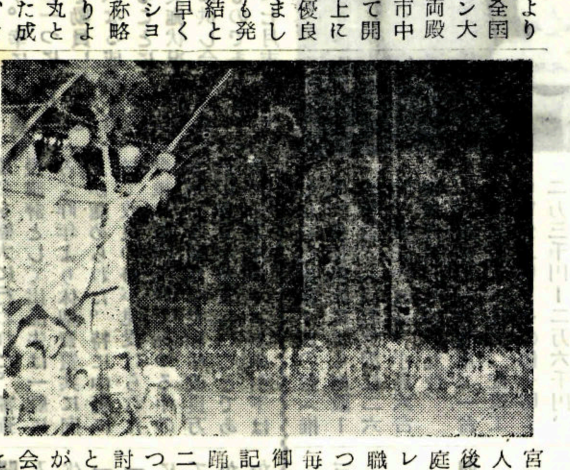
全国レクリエーション協会より
表彰……三隅町青年団

全国大会に出席した佐田青年団長は表彰のよろこびと大会の様子を次の如く述べている。

去る八月六日より四日間第十一回全国レクリエーション大会が総裁三笠宮両殿下を迎え、広島市中央公会堂に於いて開催され、その席上にて全国より二八優良団体が表彰されました。本町青年団も発足以来団員の団結と親睦を図るため早くからレクリエーション（以下レクと称略）を取り入れよりよき青年団にと一丸となつて努めて来た成果であると考へ、その成果には関係当局を始め先輩御父兄各位の理解と御指導の賜ものであると感謝致しているのであります。此の大会に参加し感謝と責任の重大さを痛感しつつ、大会の内容を申し上げます

参加者全国各地より二千人第二日八月七日九時開会及び表彰式、総裁三笠宮御夫婦御臨席、加賀山会長より表彰状を受ける。広大森戸学長特別講演平和とレクについて十時より全体討議現在に於けるレク活動の諸問題、午後各研究分科会への移動（広島会場、呉会場、三原会場、吉田会場宮島会場）ここで研究発表一人三〇分、質疑応答十五分、後研究討議、農村のレク、家庭のレク振興、青少年補導とレク体育指導委員の問題点、職場のレクレーション振興について討議、午後八時より、毎日会館にて、三笠宮両殿下御臨席の被表彰団体懇談会、記念撮影体験の発表、日本民踊とフオークダンスの夕べ第二日終了、第三日、第四日はつづいて各分科会場にて研究討議及び全国郷土芸能の発表と紹介等があり四日間の大会が終了したのであります、大会の内容のみ報告し午後表彰に背かぬ「レクの生活化」に団活動活発化のために努力を続けることを誓い御知らせとします。

最後に来年二月岩国で行われる季節移動講座に元気でみんな集ろうねと約束して、意義ある講義から帰家しました（青年団長）



〔第一回町盆踊大会〕

吉凶だより

六月二十一日から
八月二十五日まで

六月出生数　六名
七月出生数　七名
八月出生数　一〇名

七月死亡者
宗　頭　山田ツル　[illegible]才
沢　江　山本繁男　[illegible]
宗　頭　椋木キヨ　[illegible]
上中小野　厚谷とも代　[illegible]

八月死亡者
浅　田　泉　伍一　六九才
土　手　塩田隆雄　[illegible]
市　西村良介
昭和二〇年三月三日戦病死亡確認
上中小野　松崎利左衛門　八〇
東　方　安藤セキ　[illegible]
追　分　田原サト　[illegible]
野波瀬　田中ムツ　[illegible]
野波瀬　佐伯テフ　[illegible]
宗　頭　山本ナシヨ　[illegible]
中　村　種池十吉　[illegible]

左記の者は百才以上の高令者で数十年間所在不明につき法務局の許可を得て職権で戸籍の消除をしました。

岡藤マキ	天保13年3月10日生	一一五才
村外マス	嘉永5年3月6日生	一〇六才
今村吉右衛門	安政元年12月27日生	一〇四才
小林キミ	天保14年8月15日生	一一五才
有馬新蔵	嘉永4年2月15日生	一〇六才
仲　孝信	弘化2年3月29日生	一一二才
白松新吉	嘉永3年6月19日生	一〇七才
品川福松	天保14年10月20日生	一一四才
本山寅松	安政元年9月朔生	一〇四才
上本栄五郎	嘉永5年11月26日生	一〇六才
森川アキ	嘉永元年8月26日生	一〇五才
神田信吉	文政3年5月20日生	一三一才
島田チエ	弘化2年7月7日生	一一一才
山田ミヨ	安政元年7月16日生	一〇三才
谷岡ツル	天保11年8月8日生	一一七才
大下スエ	天保2年8月9日生	一二六才
山崎百合蔵	天保6年2月17日生	一二二才

◇台風防禦の完壁を期しましょう